
河童【「夏の灼熱ギャグ小説対決企画2011」参加作品】

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

河童【「夏の灼熱ギャグ小説対決企画2011」参加作品】

【Zコード】

Z0632W

【作者名】

「ごはんライス

【あらすじ】

「夏の灼熱ギャグ小説対決企画2011」参加作品です。参加者は、「ごはんライス」、希羽、月影舞月。飛び入り参戦者は、大輔華子、ハセガワハルカ。審査委員は、聖騎士、美希マコト。（敬称略）

(前書き)

企画概要については、活動報告を参照ください。

河童の太郎は、川で泳いでいた。夏の盛り。暑いけど、川の中は気持ちがいい。誰もいないので、気兼ねない。バタフライをやつたり背泳ぎをやつたりクロールをやつたり平泳ぎをやつたり犬かきをやつたり、楽しんでいた。

しかし、そのうち、遠くの川岸に、人間の小学生たちがわらわらやって来た。太郎はやべと思う。見つかってらいじめられる。人間の子供は暴力的らしい。

太郎はあわてて、子供たちとは逆の川岸を手指して泳ぐ。

太郎は、川岸に上ると、草むらの陰に隠れて、休憩した。

人間の子供たちは川できやつときやきやつときやとたわむれている。

水をかけあつたり、泳いだりもぐつたり。

太郎は、その楽しそうな声を聞きながら、寂しくなつてくる。太郎には友達がないのだ。河童が太郎一人というわけではなく、河童国というはあるのだが、太郎は不登校気味だったのだ。

太郎は仲間に入れてもらおうかなと少し思う。

草むらの陰から、じつと小学生集団を見つめていた。

「でもいじめられたやだしなあ。皿とか割られたら死んじゃう」

ちびっこたちは、太郎がいるのとは逆の川岸に上がり、川原で、バーベキューをやり始めた。

太郎は耳がいい。あはははと楽しそうな声が太郎の耳にまで届く。太郎は鼻がいい。肉の、香ばしい、いい匂いがして、仲間に入れてもらいたいなあと思い、お腹がぐうと鳴った。

太郎は本当に本当に悔しかつた。

では、なぜ太郎は不登校なのか。

それはすばり、いじめである。

河童の世界ででもいじめはある。

2010年度、147人の児童河童が自殺した。

かくいう、太郎も自殺がしたくてたまらなかつた。

それもそのはず。葬式ごっこを太郎はクラスでやられていた。

机の上に、花のさした花瓶を置かれたり、クラス全員が、色紙に「天国でもがんばってね」「今までありがとう」とか書いて太郎に渡したのだ。

昔は河童の世界にもガキ大将というのはいた。しかし、河童の世界は時が経つにつれ、平等な社会になつてきた。すると、ガキ大将は何かすると、すぐに叩かれるので、いつの間にか消滅していき、代わりにクラス全員が、弱い児童河童一人を集中的にいじめるようになった。

ガキ大将の時代は、いじめられつ子同士、慰め合つて生きてきた。しかし、集団にいじめられたら、弱者は自殺をするより他に方法がない。

そんなわけで太郎は不登校になつてゐるのである。河童の先生は、「休んでばかりいると、社会に出たとき困るぞ」と言つたが、登校したらまた集団いじめにあつて、社会人河童になる前に、自殺してしまう。

太郎は、目がいい。遠くから人間の小学生たちを眺め、ひとり、すごくかわいい女の子を見つけた。ツインテールで目が大きなかわいい女の子である。胸も小学生にしては少し大きめだ。

「ああ。あの子と遊べたら楽しいだろうなあ……」

しかし、以前、川で遊んでいた、親戚の河童の子が、人間の子供に捕まり、ボツコボツにされて殺されたのを知つてゐる。人間にはすごく暴力的なところがある。太郎は、それが怖い。確かに人間と河童は容姿がだいぶ違うので、そういうことにもなる。おそらく、河童は身体がねるねるしてるので、人間には気持ちが悪いのかもしない。

しかし、太郎は、あの女の子は違うと思う。直感だ。あの子は優しいに違ひない。髪の色でわかる。河童のおじさんに聞いたら、髪の黒い人間はいい人間らしい。ただ、あの子の周りに茶色の髪をし

た男子や女子がいる。茶色の髪をした人間は悪い人間らしい。親戚の子供は茶髪の人間に殺された。

草の陰に隠れながら、太郎はずつとずつと、ツインテールの女子を眺めていた。

しばらくすると、バーベキューを楽しんでいた小学生たちのところに、身体の大きな中学生が数人やってきた。

中学生たちは、鉄板に乗った肉やとうもろこし、その他お菓子を勝手に食べたり、ジユースを勝手に飲んだり、ひどいことには、小学生の女の子たちを捕まえて胸を触つたりお尻を触つたり、男子たちが助けようとしたら、ぶん殴り、蹴飛ばし、さらには鉄板をひっくり返したりして、川原では、ひどいことになってきた。

「ああ。何でことだ」

太郎は、怒りに満ちてきた。女の子を。女の子を助けなくちゃいけねえ。そう思う。ぶるぶる震えた。

でも、怖い。中学生たちは身体が大きいし、何人かいる。女の子が中学生たちに服を脱がされようとして、わんわん泣いている。

「許さん！！！」

太郎は、「ちや」ちや考えるのを止め、川にどぶんと飛び込んだ。すごいスピードで泳ぐ。バタフライだ。見事なバタフライ。鬼気迫る。河童なので泳ぎはお手のもの。すごいスピード。女の子を助けたいその一心。

あつとこう間に、川原にたどり着いた。

「おい！お前ら！その子を離せ！」

太郎は中学生たちに向かつて叫んだ。

中学生の一人が、うへへへと笑いながら、太郎のぬるぬるした腹を殴つた。

「ぐがつ」

太郎は腹を押さえてひざまづく。

「い、いぢやい……」

中学生は、太郎の顔を思い切り蹴飛ばし、太郎の意識はそこで途絶えた。

ツインテールの女の子は、そのまま、中学生たちに犯された。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0632w/>

河童【「夏の灼熱ギャグ小説対決企画2011」参加作品】

2011年8月24日03時25分発行